

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	プレジジョン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	ΔRG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：プレジジョン

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番

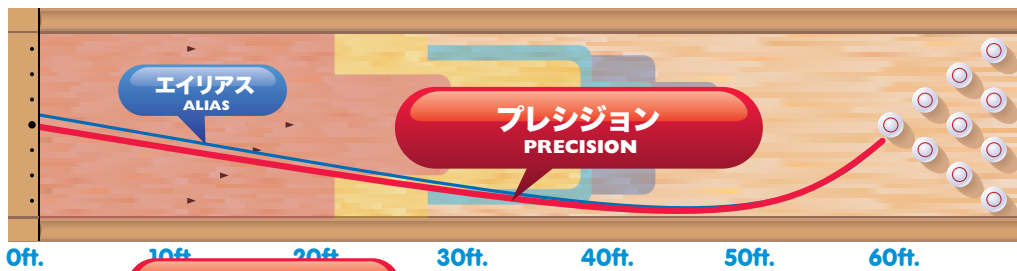
比較対照ボール：エイリアス

フレアーの幅 インチ

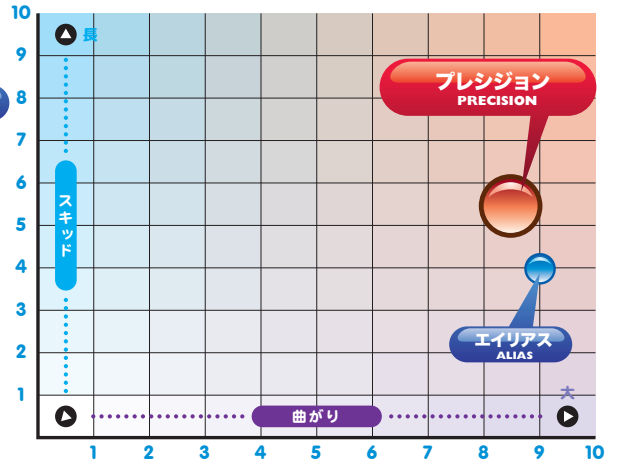
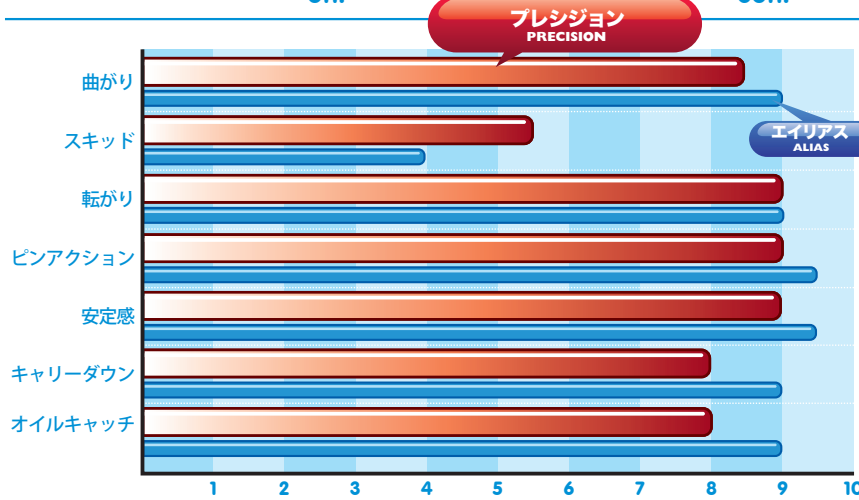
PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

TRACKの新しいRime Coverstockは、元々PARADOXで始まった技術をQR(Quick Response)シリーズで実現しています。ALIASで使用されたHybrid素材からこの新しいPearlバージョンでは、PRECISIONがALIASと比較してスキッドと反応良く、強く方向性を変える目的で採用されました。

最も画期的なことはPRECISIONに採用された”Precision SD Core”で、RG、Differential、Intermediate Differentialの3種類を1度に1つのデザインに組み立てられることでしょう。それはドリルレイアウトでRG、ΔRGの高低差を意図的に作り、質量の大きいマスパイアと組み合わせることで、ボールの方向転換、いわゆる向きを非常に敏速に変えることを可能にしています。テストドライブで品田プロ、福丸プロとラテスティングして頂きましたが、二人の共通の認識は「暴れる」印象があったようです。ポジティブに捉えると、急激に向きを変えられるパフォーマンスが出ているからこそ暴れているのであり、リアクションが出ていないどころか、ある意味二人の想像対応を越えていたことの表れでもあります。オイルを感じるコンディションでパフォーマンスを出そうとすると、どうしてもオイルキャッチし過ぎてドロドロの動きになりがちですが、スキッドからのメリハリ感がHigh Performance領域で出せるテクノロジーが見いだせるようになってきているのもTRACK社の最近の進化であると感じています。ボールの動きを出すことは動きを止めることではなく、ミッドレーンでの読み取りやすさと加速するバックエンドモーションにTRACK社は着目、意義をおいています。COLUMBIA社のSABER Pearl同様、TRACK社のPearl素材も他社に引けを取らない作りになっていることをユーザー自らが確認し、実感しなければなりません。それが新たな領域の武器を手に入れることになるでしょう。

特記事項

TRACK社最新作はNewカバーとNewコアの組み合わせのPrecision。バックエンドのシャープな切れ味を信条とする、TRACK社のイメージを変える逸品です。